
流星に願いを ㊄

佐野 レイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

流星に願いを シ

【Nコード】

N4178Y

【作者名】

佐野 レイ

【あらすじ】

地球と対になって存在する世界、妖月。

そこは、剣と魔法と妖怪が支配する世界。

地球上で平凡に過ごしていた少年、空希 光河は突然、妖月へと連れていかれてしまう。

そして、彼は次第に妖月での戦いの渦にのまれていくのだった。

絶体絶命

絶体絶命

「そこまでだ、零翁。」

「龍桜……。」

「貴様、なぜ神皇様を裏切った？」

零翁と呼ばれた男は、屈強な男たちに追い詰められていた。

零翁はふっ、と息を出す。そして、両手を広げ、言った。

「つまらないからだ。この世界が型通りに動いていくのがな。」

「ふん。それを変えるなど不可能なこと。本当に変えることができ
ると思っ……。」

「変えたいとは思わないか？」

「……。」

「俺は変えてえ。」

「無理だ。貴様はここで死ぬ。」

「そいつはどうか？」

零翁の右手に光が集まる。

それが弾けたかと思うと、一本の刀が現れた。

「月斬か……。」

月斬。別名、光惟邏祇とも呼ばれる名刀だ。

「戦うか。いいだろう。我が手をもって死なせてやる。」

龍桜の手ににぎられたのは、鬼姫と呼ばれる太刀。

二人が交錯した。

龍桜が右から左へ鬼姫を振るう。

零翁はそれを月斬で弾き、右足で龍桜の腹を蹴る。

龍桜の体が飛んだ。

「ぐ、ごおおお！？」

そして、男たちの中に落ちる。

「龍桜様！」

「大丈夫だ。」

そう言つて、龍桜は立ち上がる。

「来いよ、龍桜。志の違いを見せつけてやる。」

零翁はそう宣言した。

消滅

カン

と、乾いた金属音が響く。

上から下へ、零翁が月斬を振り下ろした。
それを龍桜は鬼姫で防ぐ。

「チツ。」

零翁は一步下がり、再度、仕掛けた。

月斬が横に一閃。

だが、龍桜はそれを叩き落とす。

ガキイン

という音が鳴った。

そのまま龍桜は前に進む。

龍桜の足が零翁の腹にめり込んだ。

「ぐっ、あ。」

「お返しだ。」

零翁の体が上へ吹っ飛んだ。

龍桜はそれを追う。

零翁は空中で一回転すると、月斬を龍桜に叩きつけた。

龍桜の体が勢い良く地面に突っ込む。

ドッゴーン

大きな音と共に地面に亀裂がはしった。

「貴様……。」

龍桜はよろよろと立ち上がる。

「まだやる？飽きねえな！」

零翁が龍桜へと向かう。

月斬が横に動く。

龍桜は鬼姫を右手で持ち、左手に小刀を持った。

小刀で月斬を受け止め、鬼姫を振る。

「くっ。」

鬼姫が零翁の右手をかすめた。

そこから、血が垂れる。

「・・・。そろそろ終わりだな。」

零翁はつぶやく。

「ああ。諦めろ。」

その時、キィィィという鳥の鳴き声が響いた。

「なんだ？」

龍桜が辺りをみる。

それがいけなかった。

零翁が月斬を上投げた。

そして、右手にチョークのようなものを持ち、空気中に何かを書いていく。

その絵が空気中に浮かぶ。

それを見た龍桜が慌てだした。

「貴様、それは封印の陣。まさか、私を月斬に封印する気か!？」

「バァー力。そんなんじゃないよ。」

零翁の体が光り出す。

「あばよ。別に俺は世界を変えられりゃー、なり振り構わないんでね。」

「まさか、自己封印か!？」

「流星に願いを！人よ変われ！世界よ変われ！我はそのためここに在る!!」

零翁が光の粒となり、月斬に吸い込まれていった。

そして、どこから来たのか、大きな鷹が月斬を口にくわえ、遠くの方へ飛んでいった。

呆然とその場に立ち尽くす龍桜と男達の目には月斬をくわえて飛んでいく鷹と、そのはるか向こうにある、流星群が映っていた。

不思議な夢

「遅れる〜。」

そひぎ こうが
空希光河は自転車走らせる。

目的地は居酒屋。

光河はそこでバイトをしているのだ。

居酒屋につき、職員用の駐輪場に自転車を止める。

店の中に入ると、何人かの人たちはもう準備を始めていた。

「空希君遅いよ。」

一人の少女がいう。

彼女の名は夕姫桃架。ゆづき ももか 同級生で同じバイトをしている。

「ごめん。」

謝り、光河も準備を始める。

「空希、八番テーブルのお客様、お勘定。」

「はい！」

こうして瞬く間に時間は過ぎてゆく。

気がつけば、すでにバイト時間は終わっていた。

帰り道、光河は桃架と並んで歩いていた。

「んー、今日も終わった〜。」

「そうだね〜。はぁー、疲れたあ〜。」

「ごめん、俺が遅れたせいで。」

「ううん。大丈夫。あつ、私、見たいテレビあったんだ！ごめん空希君。私行くね。」

「うん。おやすみ。」

「おやすみ〜。」

そう言っつて、桃架は去って行った。

「さてと、早く帰ろ。」

家につき、自分の部屋に入ると、光河は死んだようにベッドに倒れ

こんだ。

コンコン

「ん？」

窓が音をたてる。

それで光河は目を覚まし、カーテンを開けた。しかし、そこには誰もいない。

光河は窓を開け、ベランダに出た。半月よりも少し大きい月が見える。

「何もない……。気のせいか……。」

「気のせいではありません。」

声が聞こえ、振り返ると、そこには巨大な鷹がいた。

「わあっ!？」

「これは驚かせてしまつて申し訳ない。私はあるお方の御命令でここに来ました。

「あるお方……?」

「ええ。あなたこそ、我々が探していた流星の者。」

「流星の……?」

「ええ。」

「あなたには我々を救っていただきます。」

「は？」

「もう時間です。満月の夜0：00にお迎えに上がります。」

そう言つて、鷹は飛んで行った。

バツ

光河は飛び起きた。

「あ、あれ? 夢か……。」

光河はまた、深い眠りに落ちた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4178y/>

流星に願いを ㄱ

2011年11月17日17時40分発行